

令和4年度 稲沢市地域自立支援協議会 第4回地域生活支援部会 議事要旨

[日 時] 令和5年1月26日(木) 午後2時～午後3時45分

[場 所] 稲沢市役所 第1分庁舎 2階 第3会議室

[出席者] 地域生活支援部会委員7人、事務局3人

[欠席者] 地域生活支援部会委員3人

あいさつ(部会長)

[議 事]

1 協議事項

(1) 作業部会の進捗について

- ・障害児支援に関する作業部会報告(1月16日)代表委員から報告

部会長 作業部会に出席されていたかたは視聴済みだが、その他のかたは初めてだが、意見があればいただきたい。

委員A 聞きやすいと思った。整っている状態だった。違和感はない。こういう風にすればできるということも表現しているので良いと思う。

委員B 全体的にはよい。気になったのは表紙のサポートブックの写真は少し粗い。きちんとした方がよい。もう1点は、サポートブックを書いていて書きにくいと思ったのは、書き方のところで「～すれば、できます」というところ。これが一番大事。意外とできないことは羅列できるが、こうしたら良いということは大事だが書けない。一文で書いてあるが、もう少しなぜそうした方が良いのかということも伝えた上で、それが支援に繋がるからということ、できるところを伸ばすという目的を伝えていくと良い。

委員C 声も大きすぎずちょうどいい。準備するものも伝えている。確かに相談される方は出来る事が分かれば苦労しないと思う。先ほどのように丁寧に伝えるが、伝えても多分書けない母はいる。どうすればいいか分からないが、大事だと言われることはよくわかる。他の場面で苦手な点の記入の部分もある。あまりクローズアップするとかえって筆が止まることもあるので、そこの大事さは、いずれ別のものでフォローしていけば良いのかなと思った。

部会長 つまづいて止まると次へ行かないということはある。そういう意見も踏まえたい。

委員D 音楽も入れていただいた。子育て支援課が作成した音楽。曲づくりも職員でやり、保育園では体操などで使用している。書くことは、難しい人には難しい。何もないよりは説明の中で例示などをいれていけると良い。実際の具体例があると違う。こういう動画は視覚的に見やすい。こういうものなら見ようと思う。変わると思う。これを活用するように支援者にも周知していかないといけない

委員A 「既往歴」が分からない保護者がいる。「がいおうれき？」となる。注釈で、過去に罹った病気などと説明すると、「ああ」となる。それでもわからないと空欄。

委員 B 普通に使っているとわからない。

事務局 もう少し和らかい表現にしていく。

部会長 どういう表現がよいか。

委員 A 今までかかった病気とか怪我とかという、書き始める。風邪は入りますか、と聞かれたりする。長く薬を飲んだりしたものを書いて、とっている。

委員 B 患者さんにも既往歴という聞き方はしない。

部会長 「～すれば、できる」という部分を、少し例を挙げて書いていく。既往歴について説明を付けていくということで良いか。全体会で報告する必要はあるか。

事務局 部会で作成したということなので、作ったという報告があれば良いと思われる。なお、今年度あるのは、全体会ではなく本会議である。皆さん全員が集まる会議はもうない。

部会長 児童発達支援センターについても報告された。児童発達支援センターについての聞き取りを関係団体にして基本計画を作成したもの。子育て相談室なのはなどの関係についての意見や、相談支援事業所の位置づけについての意見、ひまわり園が移転するが、今は社協運営だが、今後はまだわからないこと、医療的ケアへの対応についての意見など。協議は続くので意見があれば出してほしい。

委員 D YouTube はいつ上がるか。

事務局 今年度中には、と思っているが、部会長から本会議でという話があったので、そこで見られる状態ということなら2月中下旬に会議があるので、それまでに挙げておかないと、と思っている。要望があれば承る。

委員 D 障害児保育に新たに入られる方には確実にこれを使っていただくことを説明していくので、せっかく作ったので動画を見ながら入園までに書いておいてくださいとっておくと良い。上がる時期が分かれば教えてほしい。2月ならありがたい。

部会長 ふれあい通信もサポートブックのことを入れて2月10日に撮影していく。

事務局 3月1日から15日まで映像が流れる。

部会長 活用強化月間が3月と4月なのでアピールしていけると良い。

事務局 上がった段階で委員の方にはメールで周知する。

・医療的ケア児支援ネットワーク会議について報告

部会長 ネットワーク会議について、前回の部会から今まで会議はなかったが、協議していた相談フローが完成したので説明する。

事務局 前は11月だったが、ご意見をいただいたところを修正し、運営会議で修正して今のものとなった。保育園のところは保育課に協力していただいて、言い回しを変えた。他の部分についても修正した。活用について、2月2日にネットワーク会議があるのでご意見をいただいきたい。

部会長 意見を反映していただいた。良いものになったと思う。今の相談フローは完成とい

うことになる。これをいかに活用するかになる。

事務局 第2回シンポジウムについて説明

部会長 今年には部会長のほか、コーディネーターもシンポジストとしてあがるということになった。協力という形で進めていく。チラシができれば配布するので参加してほしい。

(2)災害時の対応等に関する課題について

事務局 障害者計画のアンケート結果について説明

部会長 作業部会が多いので、忘れないように部会で議題として挙げてきた。計画のアンケートを踏まえて考えようということだった。前回もアンケート結果を報告していただいたが、今回も同じか。

事務局 前回と内容は同じだが、前回は意見を頂く時間がなかった。来年度以降も部会は継続していくので、次年度以降、どういったことをしていくと良いか、皆さんの知見から教えていただきたい。

部会長 何か協議することは難しかったので、現状把握ということで進めてきた。これから取り組むことについて、新委員で何をどうしていいか分からない、とならないように、示していけたらいい。アンケートをもとにこれが現状ということで、見ていただき、どういうことが必要か意見をいただきたい。災害だと医ケア児のお子さんにも関わるので御意見をいただきたい。

委員 E 昨年、雨がたくさん降った日に GH 利用者が夜中2時くらいに、避難所へ行った時に言われていたのは、行ったはいいがほったらかしであったと。GHは7人入所されていて、2名が公民館の避難所に避難した。川が増水して怖かったから行ったとのこと。特に何もなくて、朝になってどうぞ、と言われた。自分で怖いと思っていけるレベルのかたなのでよかったが、いざ、そういうときに、常時人がいる GH じゃないので、本当にどういったサポートがしていただけるのかを把握しておかなければならないと思った。

部会長 避難所のこと。夜中を過ごされたかたの話。

委員 E 朝6時くらいに戻ってきた。他には高齢男性1人が一緒だったと話していた。

委員 F 事業所では月に1回避難訓練をしているが、なかなか移動が難しい。

部会長 障害があるかたが避難訓練を重ねることで対応力を上げていく。避難訓練の在り方についても把握していくと良い。

委員 A 保健師活動の中で災害時にどう動くかという体制について、毎年研修や会議があるが、毎回言われるのは平時が大事ということ。障害の有無にかかわらず普段から意識しておく。必要なものをある程度準備しておくこと。多分行政が何かしてくれとか、他から支援があることを期待せず、まず自分たちで準備を、といわれる。障害のあるかたは自分で準備できないなら周りが意識していくことも大事かと思

う。今いる場所によって、そこから避難ということも考えられるのでどこかに分散して準備することも大切かと思う。避難所に無事に避難できる方ばかりではないので、最近は避難所ではないところに避難したり、避難所でストレスになるから、車中にいたりアウトドアでテントを張ったりして過ごし、避難者が一定のところに集まることがない状態が続いている。まず安全なところにいったん身を移す、それをどこにするか。そこから避難所に行く。それを普段から訓練で考えておく。いくつかのパターンを考えておくことが必要。

部会長 平時が大事ということも取り入れて来年から話をしていけると良い。

委員 D 保育園にいるときに災害があったときのために、毎月避難訓練している。備蓄品もある。避難所を開設したときに市が開設して非難されてという話で、受け入れる職員の問題は大きいと感じた。保育園の職員だと障害のお子さんやお母さんと接する機会があるので対応は戸惑わないと思うが、一般の職員は慣れていないので、多分動きが難しい。個人の力量にもよるが、システムづくり、人を育てることは大事。福祉避難所を開けるにしても、避難所はあるので、職員の動きも大事だと思う。

部会長 障害者の避難の時の受け入れの対応やスキルが大事だと思う

委員 B 避難の話を児童発達支援センターがそこに当たらないのかと思った。公の施設だし、避難所はもともと平和や祖父江にしかないし、今建てる耐震や調理場もあるし設備的にはいいのでそういうことも念頭において進んでいくと良いと思った。

部会長 新築でなく改修だがそうなると良い。

委員 B 前回の話のところで、電源の話も出ているが、自家発電もどうなっているか。災害のことを考えると、あると良い。

部会長 ネットワーク会議でも課題として挙げられているので、話を進めていければいい。

委員 C お子さんに関しては人見知り、場所見知りがあ。災害時は初めて行くところに入れるかなと思うと、福祉避難所は実際どこがあるか知らないが、保護者が普段から知っていれば、事前に行くことができ、入れるお子さんが出てくる。災害時は皆がごった返す。自分のことで精一杯というアンケート結果もあったが、指揮できる人が、自分が担当になったらできるのか、想定や練習を職員もしたことがないので、具体的に詰めていけるといい。大人の障害でも一緒に、普段からここに来れば知識がある人がいるということが数か所決まっているといいと思った。

事務局 福祉避難所は市内の老人福祉センターや保育園とか特養といった施設。障害では、はなのきの里と、そぶえ福祉園が市と協定を結んでいる。福祉避難所は2次的避難所で、おそらく各地区で一次的な避難所ができ、福祉避難所が必要だということになってはじめて開設される。初めから開設されることはないという認識。

委員 D 協定を結んでいるだけで、その先の話がまったくない。詰めていく必要がある。知識は大事だが、排除しないで受け入れていくことも大事。市の職員にも難しいスキルはなくても、同じ人として受け入れていく姿勢を持つようにすることも大事。

- 事務局 避難所の開設班の役割で、開設訓練をしたことがあるが、避難所を小学校に開設する際、市の職員は開設した後、地域の人に運営を任せて、職員は戻る。設置して会場を作って運営するための地域の防災の方に引き継いでいくことは訓練としてやるが、その後の運営としてのノウハウはない。その人が過ごしやすいマニュアルを作るのはこれからになる。今は開くだけで精一杯。場所を開くだけが稲沢市の現状。
- 部会長 大体イメージは固まってきた。避難所についての現状を知ること、そこから受け入れや対応を含め、障害の方がアンケートに書いている、避難で不安になることを中心に、その対応について、地域の人が運営していくという現状を知り、話をスタートしていけると良いと思う。
- 委員 D 危機管理課が担当なので、そういうところで何か動きとか方針はないのか。
- 事務局 防災の話をする時に危機管理課の方針は必要になる。避難所の運営は地域にお願いするということだと、地域協働課では地域づくりで防災を取り上げる部分もあるので、そういう課との連携も必要になる。福祉避難所をどう開設するかは危機管理課だが、開いた後の運営は地域のかたなので地域協働課かもしれない。今後検討するとなると今まで連携していない課と関わることになる。考え出すと課題は幅広く福祉避難所がこう設営されて運営されるので障害者にどう利用してもらおうか、ということは最終段階になる。最初に地域協働課や危機管理課をどう巻き込んでいくかを考えることからになる。作業部会が来年度設置されることになれば、危機管理課や地域協働課を巻き込んで障害のあるかたのことを考えていくことが必要。来年度以降、新しい渦を巻き起こしていけると良い。
- 部会長 次年度について確認していく。災害に関しては避難所などいろいろあるが、福関係者だけでなく防災関係とも話を進めていく。他の作業部会も確認するが、医ケアについては、フローも完成し、3つの体制づくりを進めてきたので田原市の学校介助員制度のような学校だけの負担にならないように地域でできる仕組みづくりを話し合う。コーディネーターの活動はネットワーク会議の進行やケースの把握をしていく。災害時の体制は部会と連携をしていく。地域生活支援拠点に関しては、次年度はケースがあったら振り返り、ブラッシュアップしていく。評価して課題を見つけていく。点を増やし、次年度は半分になるように目指す。体験の充実をどうするかということで止まっているのでそのあたりも含めて進めていく。障害児支援は、サポートブックの強化月間やユーチューブ作成などをしたが、来年度は活用編も作成する。書き方編もブラッシュアップしていく。児童発達支援センターの提言もしていく。

3 その他

- 事務局 清須市での医療的ケアに関するシンポジウムについて説明（意見なし）